

入場無料
予約不要

講演会

CALMS モデルによる 吃音のアセスメントと臨床

従来、吃音の臨床は、吃音の言語症状の軽減・改善に主眼がおかれてきました。しかし近年では、吃音の言語症状だけでなく、全般的な認知能力や言語能力、口腔運動能力、それから吃音に対する知識・認識面、行動面、心理・感情面、社交性、環境要因などといった様々な要因を包括的・総合的にアセスメント・臨床を行う「多面的モデル」が提唱されるようになりました。そこで今回

は、「多面的モデル」を提唱している第一人者で、ネブラスカ大学リンカーン校教授の Dr. E. Charles Healey 氏をお招きし、多面的モデルの1つである CALMS モデルによる吃音のアセスメントと臨床についてご講演いただきます。この講演会は、広島、福岡、大阪の3会場で開催いたします。大変貴重な機会ですので、どうぞお誘いあわせのうえお越しください。



E. Charles Healey 教授

■ 略歴：米国音声言語聴覚協会（ASHA）認定言語療法士（CCC-SLP）、同協会吃音分科会認定臨床スペシャリスト（BRS-FD）、同協会フェロー。ケンタッキー大学で言語病理学士、言語病理学修士を取得し、その後パデュー大学にて言語病理学博士を取得。1977年よりネブラスカ大学リンカーン校に勤務。研究・臨床領域は吃音と音声障害。近年は吃音中核症状の聴知覚に関する研究に取り組むとともに、CALMS モデルによるアセスメント・臨床アプローチを確立させた。このアプローチは全米に広まりつつある。

会場案内

各会場では、E. Charles Healey 教授の講演に併せて以下の講演が行われます。

広島会場	12月4日 日 13:30～17:00（13:00開場） 広島大学教育学部 L205号教室 〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1（広島大学総合博物館階上） （広島大学東広島キャンパス内）	川合 紀宗（広島大学） 「吃音の包括的・総合的アセスメントの重要性」
福岡会場	12月7日 水 18:00～20:00（17:40開場） 福岡教育大学附属教育実践総合センター2階大Ⅲ教室 〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町1-1 （福岡教育大学キャンパス内）	見上 昌睦（福岡教育大学） 「言語症状、環境調整、本人の反応にアプローチした学齢期吃音児の指導」
大阪会場	12月10日 土 13:00～16:30（12:30開場） 大阪医療福祉専門学校 3階大教室 〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-2-14 （大阪医療福祉専門学校内）	氏平 明（豊橋技術科学大学） 「吃音者と非吃音者の非流暢性の音声学・言語学的側面」

入場は無料です。事前予約も不要です（当日は混雑が予想されますのでお早めにお越しくださいませ。全員分の座席が確保できない場合もございます。何とぞご了承くださいませ）
日本語通訳あり

お問い合わせ

広島大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター
〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1
TEL & FAX：082-424-7179
Email: csnerp@hiroshima-u.ac.jp（担当：川合・大鹿）

主催：科学研究費補助金「言語の普遍性と個別性を考慮した言語障害の症状の解明とそのセラピーの研究（課題番号：23320083、代表：氏平明）」チーム、日本コミュニケーション障害学会吃音および流暢性障害分科会、広島大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター・同特別支援教育学講座、福岡教育大学附属特別支援教育センター・同特別支援教育講座

共催：国立大学法人障害児教育関連センター連絡協議会

後援：（依頼中を含む）：日本言語聴覚士会、日本コミュニケーション障害学会、日本音声言語医学会、NPO 法人全国言友会連絡協議会、NPO 法人全国ことばを育む会、広島大学、広島大学大学院教育学研究科、広島県言語聴覚士会、福岡県言語聴覚士会、大阪府言語聴覚士会、広島言友会、福岡言友会、北九州言友会

協賛：日本音声学会、日本音韻論学会、京都言語障害研究会、河崎リハビリテーション大学、大阪医療福祉専門学校

* 本講演会は、平成23年度科学研究費補助金（基盤研究（B））「言語の普遍性と個別性を考慮した言語障害の症状の解明とそのセラピーの研究（課題番号：23320083、代表：氏平明）」の経費による補助を受けています。